

# 第3章 障害者・障害児を 取り巻く現状

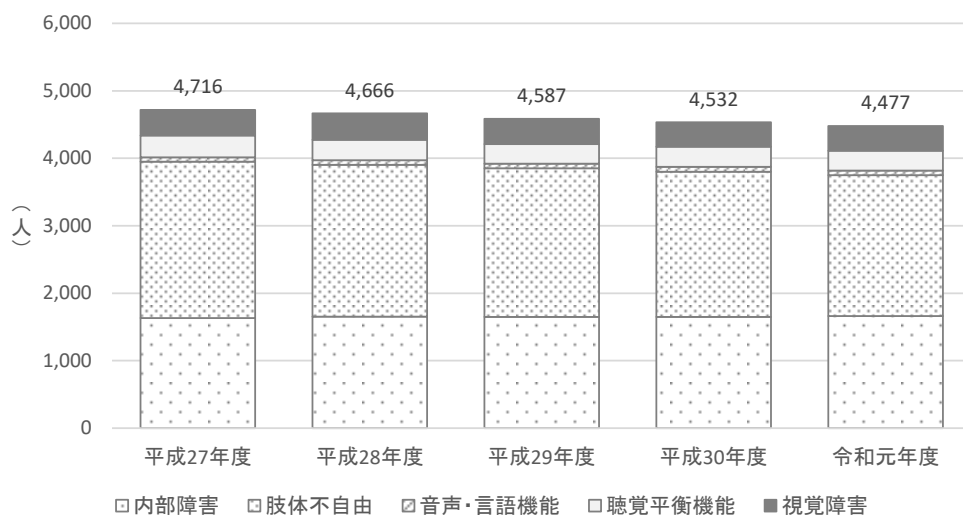


# 1 障害者・障害児の人数

## (1) 身体障害者手帳所持者数の推移

身体障害者手帳所持者は、令和元年度末現在、4,477 人です。4年前の平成 27 年度と比較すると、5.1%の減少となっています。障害種別では、肢体不自由が最も多く 2,085 人（46.6%）、次いで内部障害が 1,663 人（37.1%）、視覚障害が 365 人（8.2%）、聴覚平衡機能が 294 人（6.6%）、音声・言語機能が 70 人（1.6%）となります。肢体不自由と内部障害の両者を合わせると 3,748 人で、全体の 83.7%を占めています。

【図表：身体障害者手帳所持者数の推移】



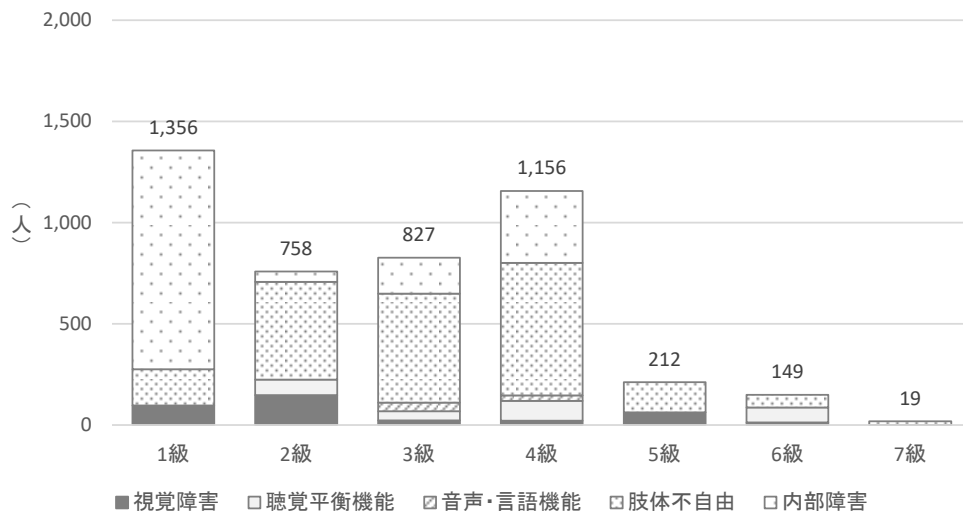
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
視覚障害	379	390	377	360	365
聴覚平衡機能	324	306	290	299	294
音声・言語機能	63	66	66	72	70
肢体不自由	2,319	2,252	2,205	2,150	2,085
内部障害	1,631	1,652	1,649	1,651	1,663
合 計	4,716	4,666	4,587	4,532	4,477

(各年度末現在)

### 第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

令和元年度における等級別の身体障害者数は、1級が1,356人、次いで4級が1,156人、3級が827人、2級が758人、5級が212人、6級が149人、7級が19人となっています。

【図表：令和元年度等級別身体障害者数】



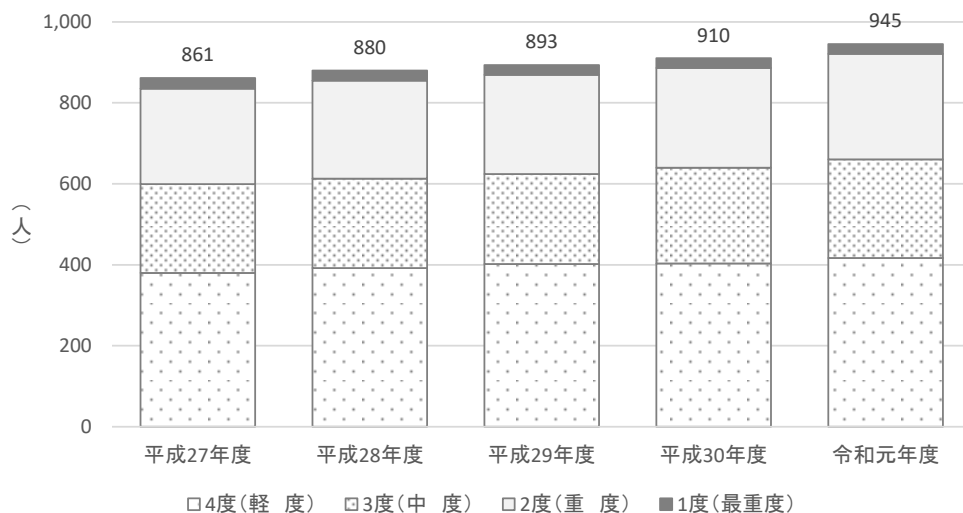
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	小計
視覚障害	96	148	23	22	63	13	0	365
聴覚平衡機能	0	77	46	97	0	74	0	294
音声・言語機能	0	0	42	28	0	0	0	70
肢体不自由	180	483	538	654	149	62	19	2,085
内部障害	1,080	50	178	355	0	0	0	1,663
合計	1,356	758	827	1,156	212	149	19	4,477

(令和元年度末現在)

## (2) 愛の手帳所持者数の推移

愛の手帳所持者は、令和元年度末現在945人です。4年前の平成27年度と比較すると、9.8%の増加となっています。4度（軽度）が最も多く、417人で44.1%を占め、次いで2度（重度）が261人（27.6%）、3度（中度）が243人（25.7%）、1度（最重度）が24人（2.5%）となります。4度（軽度）と3度（中度）を合わせると660人で、全体の69.8%を占めています。

【図表：愛の手帳所持者数の推移】



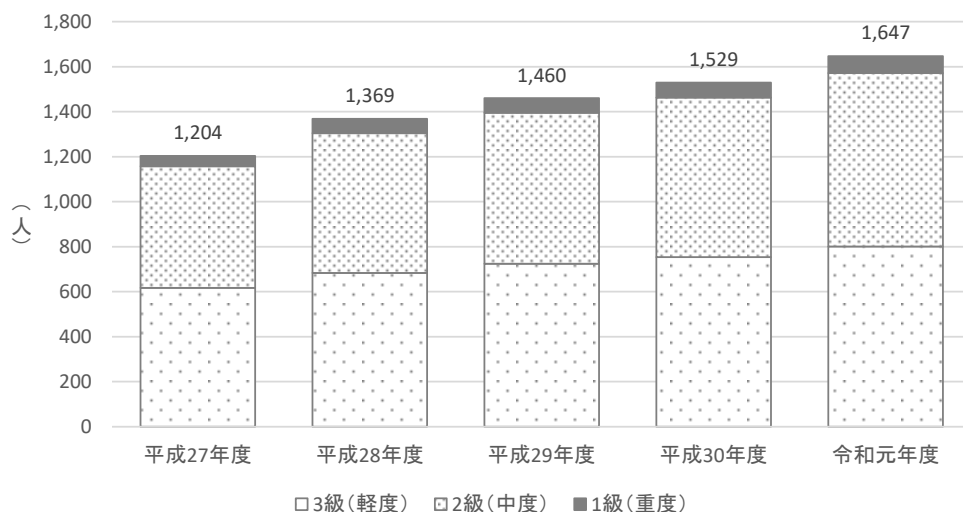
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1度(最重度)	26	25	24	24	24
2度(重度)	236	242	245	246	261
3度(中度)	219	221	222	237	243
4度(軽度)	380	392	402	403	417
合計	861	880	893	910	945

(各年度末現在)

### (3) 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

精神障害者保健福祉手帳所持者は、令和元年度末現在 1,647 人です。4年前の平成 27 年度と比較すると 36.8%増加しています。3級(軽度)の人が最も多く 801 人(48.6%)、次いで2級(中度)が 771 人(46.8%)、1級(重度)が 75 人(4.6%)となっています。

【図表：精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移】



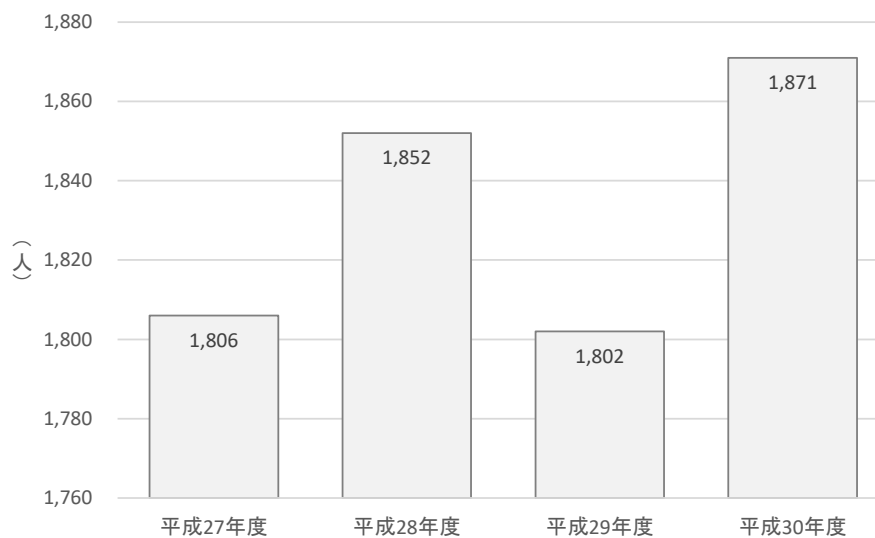
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
1 級 (重度)	47	64	64	66	75
2 級 (中度)	540	622	672	709	771
3 級 (軽度)	617	683	724	754	801
合 計	1,204	1,369	1,460	1,529	1,647

(各年度末現在)

## (4) 難病医療券所持者数の推移

平成25年4月に施行された障害者総合支援法において、障害者・児の範囲に新たに難病患者が加わりました。その後の難病医療券所持者は、平成30年度末現在1,871人です。法施行時の平成25年度末は1,661人、その後平成27年度以降は1,800人を超える数で推移してきています。

【図表：難病医療券所持者数の推移】



(各年度末現在)

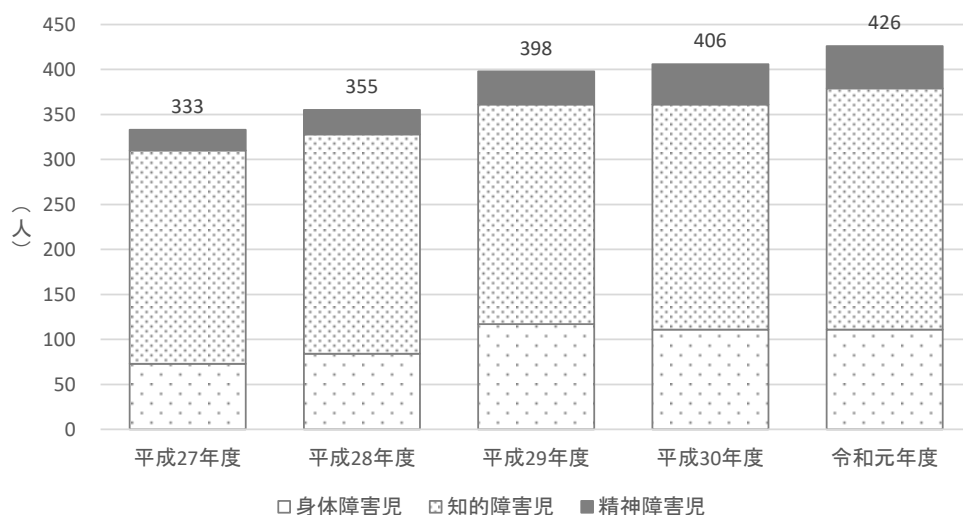
\*東京都福祉・衛生統計年報の確定数値

## (5) 障害児の手帳所持者数

### ○障害児の手帳所持者数の推移

障害児の手帳所持者は、令和元年度末現在 426 人です。令和元年度における障害児の手帳所持者数を障害種別で見ると、知的障害が最も多く 268 人（62.9%）、次いで身体障害が 111 人（26.1%）、精神障害が 47 人（11.0%）となっています。また、4年前の平成 27 年度と比較すると 27.9%の増加となっています。

【図表：障害児の手帳所持者数の推移】



	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
身体障害児	73	84	117	111	111
知的障害児	237	244	244	250	268
精神障害児	23	27	37	45	47
合 計	333	355	398	406	426

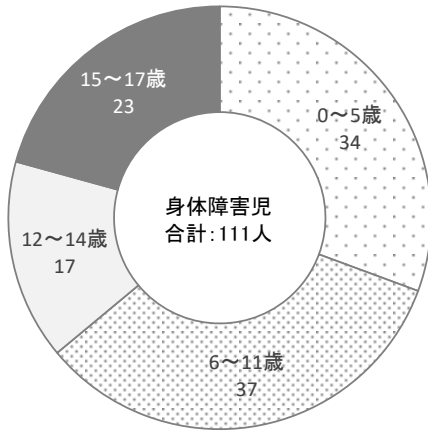
(各年度末現在)



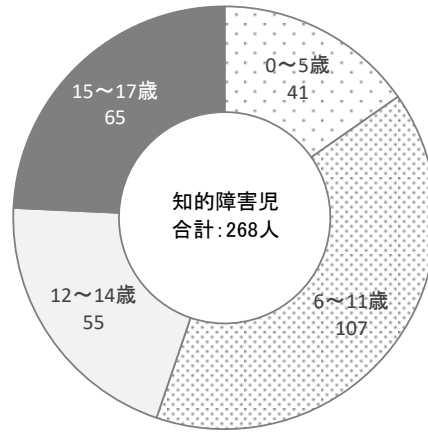
○障害児の年齢別手帳所持者数

【図表：障害児の年齢別手帳所持者数】

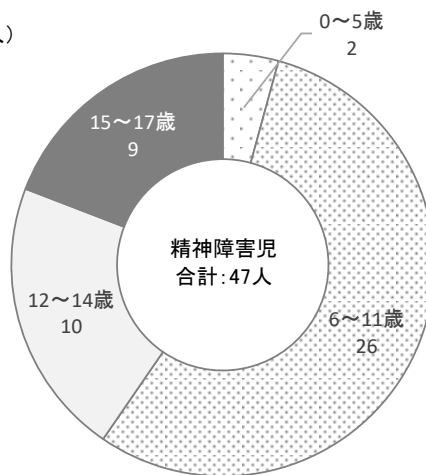
(人)



(人)



(人)



(令和元年度末現在)

## 2 地域生活の現状と課題

### (1) 区内障害者・児 施設

(令和2年4月1日現在)

No	施設名	住所	基幹相談支援センター	グループホーム	計画相談支援	地域相談支援(地域移行・地域定着)	障害児相談支援	一般相談支援	地域活動支援センター	生活介護	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	自立訓練(機能訓練)	自立訓練(生活訓練)	施設入所支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	短期入所・日中短期入所	就労支援センター	地域生活支援拠点	
																				※1	※1	※1
(参照) 本計画における計画事業掲載ページ																						
1	障害者基幹相談支援センター	文京区小日向 2-16-15	○																			
2	リアン文京																○			○		
3	地域プラザ ぷらっと				○	○																
4	マイポジション								○													
5	こばん									○												
6	ワークプレイス いんいん											○	○									
7	放課後等デイサービス びおら																		○			
8	大塚福祉作業所	文京区大塚 4-50-1									○	○										
9	小石川福祉作業所	文京区小石川 3-30-6									○	○										
10	本郷福祉センター(若駒の里)	文京区本駒込 4-35-15 勤労福祉会館 2階							○													
11	放課後等デイサービス JOY	文京区本駒込 4-35-15 勤労福祉会館 2階																○				
12	障害者就労支援センター	文京区 4-15-14 文京区民センター																		○		
13	本富士生活あんしん拠点	文京区本郷 2-21-3 青木ビル 1階																			○	
14	ワークショップ やまどり	文京区弥生 2-9-6								○		○										
15	は〜と・ピア	文京区大塚 4-21-8								○												
16	は〜と・ピア2	文京区小石川 4-4-5								○	○											
17	銀杏企画	文京区本郷 5-25-8 香川ビル											○									
18	銀杏企画Ⅱ	文京区本郷 3-16-4 本郷天理ビル 3階											○									

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

No	施設名	住所	基幹相談支援センター	グループホーム	計画相談支援	地域相談支援（地域移行・地域定着）	障害児相談支援	一般相談支援	地域活動支援センター	生活介護	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	自立訓練（機能訓練）	自立訓練（生活訓練）	施設入所支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	短期入所・日中短期入所	就労支援センター	就労定着支援	地域生活支援拠点
（参照）本計画における計画事業掲載ページ																						
19	銀杏企画三丁目	文京区本郷 3-29-6 カリテス佐々木 2 階											○									
20	銀杏企画三丁目 移行分室	文京区本郷 3-37-1 2 階									○										○	
21	abeam（アビーム）	文京区千石 4-37-4 ウイスタリア千石 1 階											○									
22	工房わかぎり	文京区春日 2-19-3 北原ビル 3 階											○									
23	だんござかハウス 相談支援係	文京区千駄木 2-33-8			○		○															
24	リバーサル	文京区本郷 2-25-5 角地ビル 3 階、地下 1 階									○										○	
25	ベジティア	文京区本郷 1-10-14										○										
26	リヴァトレ御茶ノ水	文京区本郷 2-3-7 御茶の水元町ビル 1 階													○							
27	ベルーフ	文京区小石川 5-4-1 瑞穂第一ビル 9 階									○										○	
28	JoBridge(ジョブリ ッジ) 飯田橋	文京区後楽 2-2-10 8 階									○											
29	ヒューライフ 水道 橋キャリアセンター	文京区本郷 2-4-7 大成堂ビル 3 階									○										○	
30	リドアーズ・ベネフ アイ お茶の水	文京区湯島 2-31-15 和光湯島ビル 7 階									○										○	
31	ティ・リーフ	文京区本駒込 2-27-10 本駒込 SIビル 3 階											○									
32	ふる里学舎本郷	文京区本郷 2-21-7			○								○									
33	エナジーハウス	文京区千駄木 5-10-8			○			○	○													
34	文京地域生活支援 センター あかり	文京区千石 4-27-12 水間ビル 1 階			○	○		○	○													
35	地域活動支援センタ ー みんなの部屋	文京区関口 3-16-15 カトリックセンター 地下 1 階							○	○												
36	児童発達 支援センター	文京区湯島 4-7-10 教育センター内			○		○										○	○				
37	富坂子どもの家	文京区小石川 2-17-41															○	○				
38	放課後等デイサービ ス カリタス翼	文京区本駒込 5-4-4 カトリック本郷教会信徒 会館 4 階																○				

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

No	施設名	住所	基幹相談支援センター	グループホーム	計画相談支援	地域相談支援（地域移行・地域定着）	障害児相談支援	一般相談支援	地域活動支援センター	生活介護	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	自立訓練（機能訓練）	自立訓練（生活訓練）	施設入所支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	短期入所・日中短期入所	就労支援センター	地域生活支援拠点
																				※1	※1
（参照）本計画における計画事業掲載ページ																					
39	未来教室	文京区小石川 2-6-5-201															○				
40	放課後等デイサービス あんぷラス江戸川橋	文京区関口 1-48-6 日火江戸川橋ビル第2 201																○			
41	ドリームハウスⅢ・Ⅳ	文京区白山 2-25-5		○																	
42	第六みずき寮	文京区西片 1-3-8		○																	
43	エルムンド小石川	文京区小石川 5-7-5		○																	
44	わかぎりの家	文京区春日 2-19-3 北原ビル 4、5階		○																	
45	陽だまりの郷	文京区小石川 4-4-5		○																	
46	エルムンド千石	文京区千石 2-33-17		○																	
47	発達支援ルーム ぼけっと	文京区小石川 5-38-2 クレストヒルズ小石川 2階															○	○			
48	ハッピーテラス 千駄木教室	文京区根津 2-37-8 東急ドエル・アルス根津 102号																○			
49	あくせす	文京区大塚 4-21-8			○	○															
50	サポートセンター いちょう	文京区本郷 3-37-1 中村ビル 2階			○																
51	ふる里学舎大塚	文京区大塚 4-50-1			○																
52	ふる里学舎小石川	文京区小石川 3-30-6			○																
53	指定特定相談支援事業 ふくろう	文京区弥生 2-9-6			○																

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

No	施設名	住所	基幹相談支援センター	グループホーム	計画相談支援	地域相談支援（地域移行・地域定着）	障害児相談支援	一般相談支援	地域活動支援センター	生活介護	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	自立訓練（機能訓練）	自立訓練（生活訓練）	施設入所支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	短期入所・日中短期入所	就労支援センター	地域生活支援拠点
																				※ <sup>1</sup>	※ <sup>1</sup>
（参照）本計画における計画事業掲載ページ																					
54	相談支援事業所 リリーフ	文京区湯島 3-20-9-401			○		○														
55	ホームいちよう	文京区内（※ <sup>2</sup> ）		○																	
56	第2ホームいちよう	文京区内（※ <sup>2</sup> ）		○																	
57	文京ホーム アンダンテ茗荷谷	文京区内（※ <sup>2</sup> ）		○																	
58	アンビシオン文京	文京区小石川2-6-5 小石川2丁目ビル 地下1階							○												
59	コペルプラス千駄木	文京区千駄木2-21-1 ANNEX-A103号室															○				
60	こみゅ動坂	文京区千駄木4-8-14		○															○		
61	サンヴィレッジ 文京センター	文京区本駒込 3-20-3-7									○										
62	のんのハウス千駄木	文京区内（※ <sup>2</sup> ）		○																	
63	ハッピーテラス 千駄木第二教室	文京区千駄木2-7-12 千駄木今晚軒1-2階															○	○			
64	マインドサポート	文京区湯島2-4-3 ソフィアお茶の水904			○																
65	相談支援事業所 やえ	文京区向丘2-33-14			○		○														

※<sup>1</sup> 今回計画で追加した事業となります。

※<sup>2</sup> 区内障害者・児施設マップには掲載していない事業所です。

### 第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

#### 【区内障害者・児施設マップ】

別添 施設マップ参照（見開き A3 ページ）

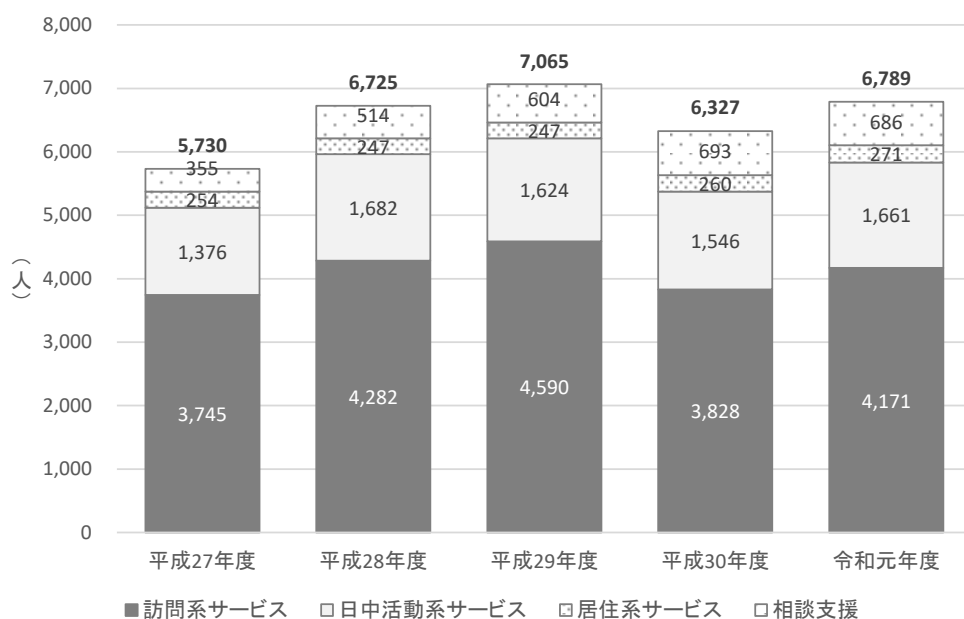
## (2) 障害福祉サービス等の利用状況と日常生活への支援について

### ○障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス等の延利用者数

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの利用者は、令和元年度末現在 6,789 人で、4年前の平成 27 年度と比較すると、18.5%の増加となっています。利用サービスの中で最も多いのが、訪問系サービスの 4,171 人で全利用者の 61.4%、次いで日中活動系サービスの 1,661 人（同 24.5%）で、この両者で全体の 85.9%を占めています。

4年前に比べ、特に利用者の伸びが大きいのは相談支援（指定特定相談支援など）です。相談支援（指定特定相談支援など）の利用者数自体は 686 人と多くないものの、平成 27 年度と比較すると 1.9 倍に増えています。訪問系サービス、日中活動系サービス、居住系サービスの利用者は、平成 27 年度から 28 年度にかけて増加したものの、その後はいずれも概ね横ばいの傾向にあります。

【図表：障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス等の延利用者数】



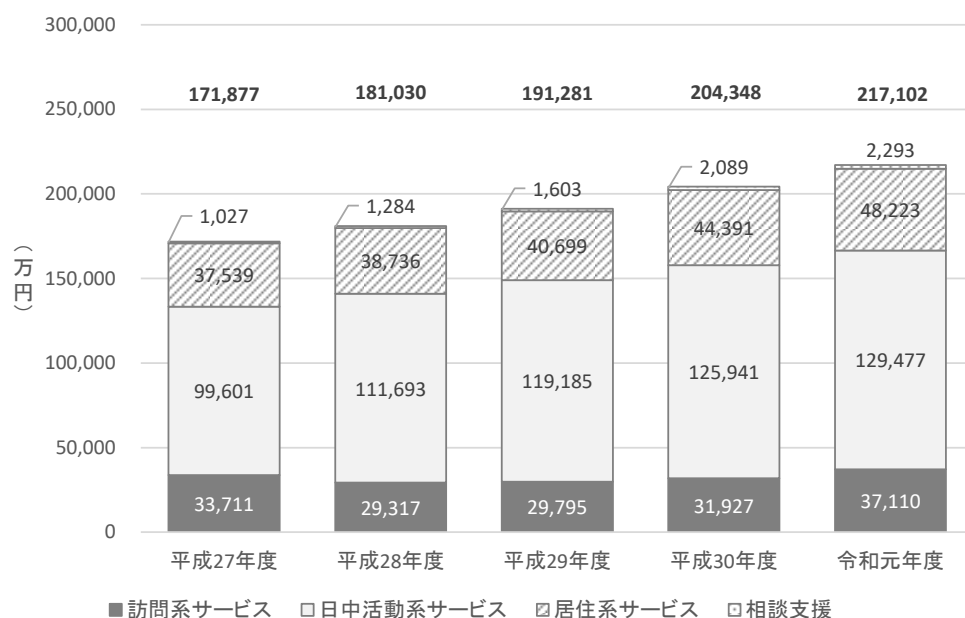
(各年度末現在)

## ○障害者総合支援法に基づく給付額

令和元年度における障害者総合支援法に基づくサービスの給付額は、4年前の平成27年度と比較して26.3%の増加となりました。平成24年度から平成28年度までの4年間の伸びは31.0%の増加となり、過去と比較して増加率自体は小さくなっているものの、給付額は21億7千万円を超えています。

サービス別では、給付額が最も大きいのは日中活動系サービスで12億9,477万円、次いで居住系サービスの4億8,223万円、訪問系サービスの3億7,110万円、相談支援（指定特定相談支援など）の2,293万円となっています。この4年間の給付額の増加では、相談支援（指定特定相談支援など）が2.2倍に伸びています。次いで日中活動系サービスが30.0%の増加、居住系サービスが28.5%の増加、訪問系サービスは10.1%の増加となっています。

【図表：障害者総合支援法に基づく給付額】



(各年度末現在)



## ○日常生活に必要な介助・支援（在宅の方）（実態・意向調査より）

令和元年度に実施した文京区障害者（児）実態・意向調査（以下意向調査という）で、在宅の方に日常生活に必要な介助・支援をお聞きしたところ、全体としては「調理・掃除・洗濯等の家事」が28.0%と最も多く、次いで「区役所や事業所等の手続き」が24.9%、「日常の買い物」が22.6%と2割台で続きます。一方、「介助や支援は必要ない」は42.3%と4割を超えています。なお、障害別にみると、いずれの項目も知的障害の方が必要としている割合が最も高くなっています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「調理・掃除・洗濯等の家事」と答えた方では、知的障害と並んで高次脳機能障害が61.3%と最も多く、次いで発達障害が50.0%。その他が45.8%と続きます。「区役所や事業所等の手続き」と答えた方では、知的障害が70.6%と最も多く、次いで高次脳機能障害が58.1%、音声・言語・そしゃく機能障害が48.3%と続きます。「日常の買い物」と答えた方では、知的障害が51.9%と最も多く、次いで高次脳機能障害が41.9%、視覚障害が41.4%と続きます。「お金の管理」と答えた方では、知的障害が69.8%と最も多く、次いで発達障害が50.0%、高次脳機能障害が48.4%と続きます。「通院・通勤・通学」と答えた方では、知的障害が48.5%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が34.5%、視覚障害が31.7%と続きます。「薬の管理」と答えた方では、知的障害が56.2%と最も多く、次いで高次脳機能障害が51.6%、音声・言語・そしゃく機能障害が42.5%と続きます。「通院・通勤・通学以外の外出」と答えた方では、知的障害が47.2%と最も多く、次いで視覚障害が37.9%、音声・言語・そしゃく機能障害が36.8%と続きます。「代筆・代読」と答えた方では、知的障害が50.6%と最も多く、次いで視覚障害が48.3%、高次脳機能障害が41.9%と続きます。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：日常生活に必要な介助・支援（在宅の方）】

	調理・掃除・洗濯等の家事	区役所や事業者などの手続き	日常の買い物	お金の管理	勤通院、通学・通勤	薬の管理	通院、通学・通勤以外の外出	代筆・代読
肢体不自由	42.6%	31.7%	36.4%	21.0%	27.2%	21.9%	25.4%	18.3%
音声・言語・そしゃく機能障害	41.4%	48.3%	39.1%	41.4%	34.5%	42.5%	36.8%	41.4%
視覚障害	35.9%	40.7%	41.4%	20.0%	31.7%	22.1%	37.9%	48.3%
聴覚・平衡機能障害	24.7%	25.9%	19.6%	13.3%	21.5%	19.6%	12.7%	17.1%
内部障害	26.0%	19.5%	22.5%	13.2%	18.9%	13.8%	16.5%	9.3%
知的障害	61.3%	70.6%	51.9%	69.8%	48.5%	56.2%	47.2%	50.6%
発達障害	50.0%	45.3%	36.7%	50.0%	30.0%	36.7%	32.0%	28.7%
精神障害	33.6%	24.0%	19.3%	22.4%	16.2%	21.9%	13.9%	8.5%
高次脳機能障害	61.3%	58.1%	41.9%	48.4%	25.8%	51.6%	25.8%	41.9%
難病（特定疾病）	17.2%	13.2%	15.5%	7.4%	10.6%	8.3%	9.7%	5.9%
その他	45.8%	37.5%	37.5%	37.5%	20.8%	29.2%	20.8%	16.7%
全体	28.0%	24.9%	22.6%	18.9%	18.4%	17.5%	16.6%	14.3%

## ○今後希望する生活（施設入所の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、施設入所の方に今後希望する生活をお聞きしたところ、全体としては「現在の施設で生活したい」が60.4%と約6割を占め最も多く、次いで「施設を退所して、家族や親族と生活したい」と「施設を退所して、独立して生活したい」がともに3.0%と続きます。一方、「わからない」は25.7%となっています。

項目別にみると、聴覚・平衡機能障害、内部障害、高次脳機能障害及び難病の方は、今後も「現在の施設で生活したい」との意向がいずれも100%と多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が80.0%、肢体不自由が77.4%、精神障害が71.4%と続きます。全体的に多くの方が今後も「現在の施設で生活したい」という意向でした。しかし、視覚障害の方に「現在の施設で生活したい」との意向はなく（0.0%）、「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」の意向が100%でした。「わからない」と答えた方では、発達障害が33.3%と最も多く、次いで知的障害が27.8%。音声・言語・そしゃく機能障害が20.0%と続きます。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：今後希望する生活（施設入所の方）】

	現在の施設で生活したい	施設を退所して、家族や親族と生活したい	施設を退所して、独立して生活したい	施設を退所して、グループホームなどで生活したい	別の施設で暮らしたい	わからない
肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳性麻痺・移動機能障害等）	77.4%	3.2%	0.0%	3.2%	0.0%	16.1%
音声・言語・そしゃく機能障害	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
視覚障害	0.0%	0.0%	100%	0.0%	0.0%	0.0%
聴覚・平衡機能障害	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能等）	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
知的障害	57.0%	3.8%	3.8%	1.3%	2.5%	27.8%
発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	33.3%
精神障害	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
高次脳機能障害	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
難病（特定疾病）	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	60.4%	3.0%	3.0%	1.0%	2.0%	25.7%

## ○地域で安心して暮らすために必要な施策（在宅の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、在宅の方に地域で安心して暮らすために必要な施策をお聞きしたところ、全体としては「障害に対する理解の促進」が31.0%と3割を超えて最も多く、次いで「福祉・医療・介護との連携」が28.8%、「経済的支援の充実」が28.5%、「医療やリハビリテーションの充実」が27.2%と続きます。（※回答は、あてはまるものを5つまで選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「障害に対する理解の促進」と答えた方では、発達障害が50.0%と最も多く、次いで精神障害が44.0%、高次脳機能障害が41.9%と続きます。「福祉・医療・介護との連携」と答えた方では、その他が41.7%と最も多く、次いで難病が36.1%、肢体不自由が33.4%と続きます。「経済的支援の充実」と答えた方では、精神障害が42.4%と最も多く、次いで発達障害が37.3%、難病が33.8%と続きます。「医療やリハビリテーションの充実」と答えた方では、肢体不自由が47.0%と最も多く、次いで高次脳機能障害が45.2%、難病が35.3%と続きます。「災害時支援の充実」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害が31.0%と最も多く、次いで視覚障害が26.9%と続きます。「仕事を継続するための支援」と答えた方では、発達障害が33.3%と最も多く、次いで精神障害が26.6%、知的障害が24.3%と続きます。「身近な地域で相談できる場の充実」と答えた方では、精神障害が27.8%と最も多く、次いで発達障害が26.0%、音声・言語・そしゃく機能障害が19.5%と続きます。「道路・建物等のバリアフリー化」と答えた方では、肢体不自由が27.2%と最も多く、次いで視覚障害が26.9%、高次脳機能障害が19.4%と続きます。

### 第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：地域で安心して暮らすために必要な施策（在宅の方）】

	障害に対する理解の促進	福祉・医療・介護との連携の充実	経済的支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	災害時支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	建物・道路等のバリアフリー化
肢体不自由	24.6%	33.4%	20.4%	47.0%	25.1%	6.2%	11.8%	27.2%
音声・言語・そしゃく機能障害	39.1%	25.3%	14.9%	34.5%	17.2%	4.6%	19.5%	16.1%
視覚障害	35.9%	24.1%	17.2%	24.8%	26.9%	16.6%	13.8%	26.9%
聴覚・平衡機能障害	38.6%	32.3%	17.1%	28.5%	31.0%	13.3%	13.9%	8.2%
内部障害	22.8%	32.3%	23.4%	30.5%	23.1%	9.0%	13.5%	18.3%
知的障害	37.0%	25.5%	20.0%	12.8%	20.4%	24.3%	17.4%	8.1%
発達障害	50.0%	18.7%	37.3%	10.7%	15.3%	33.3%	26.0%	2.0%
精神障害	44.0%	20.7%	42.4%	16.7%	17.4%	26.6%	27.8%	4.9%
高次脳機能障害	41.9%	25.8%	29.0%	45.2%	9.7%	12.9%	19.4%	19.4%
難病（特定疾病）	23.6%	36.1%	33.8%	35.3%	21.8%	21.8%	15.8%	19.1%
その他	12.5%	41.7%	29.2%	16.7%	12.5%	12.5%	12.5%	8.3%
全体	31.0%	28.8%	28.5%	27.2%	21.0%	18.6%	17.7%	14.9%

#### ■障害福祉サービス等の利用状況と日常生活への支援における課題

- ・ 障害の特性や状況に応じた適切な障害福祉サービス等が提供されること
- ・ 支え手・受け手の垣根を越えた、地域共生社会の構築に向けた支援体制を整備すること
- ・ 障害者が自ら望む生活を営めるようにするためのサービス基盤が整備されること
- ・ 障害者が安心して地域生活に移行し、定着できる福祉サービスが提供されること
- ・ 障害福祉サービスの安定的な質・量が確保されること

### (3) 相談支援と権利擁護について

#### ○困ったときの相談相手（在宅の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、在宅の方に困ったときの相談相手をお聞きしたところ、全体としては「家族や親族」が77.4%と7割半ばを超え突出して多く、次いで「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談士）」が42.4%、「友人・知人」が22.7%と続いており、それ以外の項目は概ね1割以下となっています。一方、「相談相手がいない」は3.4%となっています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、いずれの障害でも約70~80%と多くの方が「家族や親族」と答えています。「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談士）」と答えた方では、精神障害が54.8%と最も多く、次いで難病が52.3%、内部障害が50.3%と続きます。「友人・知人」と答えた方では、音声・言語・そしゃく機能障害が29.9%と最も多く、次いで難病が29.0%、聴覚・平衡機能障害が25.9%と続きます。「利用している施設の職員・グループホームの世話人」と答えた方では、知的障害が43.0%と最も多く、次いで発達障害が26.7%、音声・言語・そしゃく機能障害が21.8%と続きます。「障害福祉課・予防対策課」と答えた方では、知的障害が18.3%と最も多く、次いで発達障害が16.7%、高次脳機能障害が16.1%と続きます。「ヘルパー等福祉従事者」と答えた方では、高次脳機能障害が19.4%と最も多く、次いで視覚障害が17.9%、肢体不自由が14.5%と続きます。「高齢者あんしん相談センター」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害が12.7%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が10.3%、肢体不自由が9.2%と続きます。「相談相手がいない」と答えた方は、いずれの障害も5%以下と少なくなっています。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：困ったときの相談相手（在宅の方）】

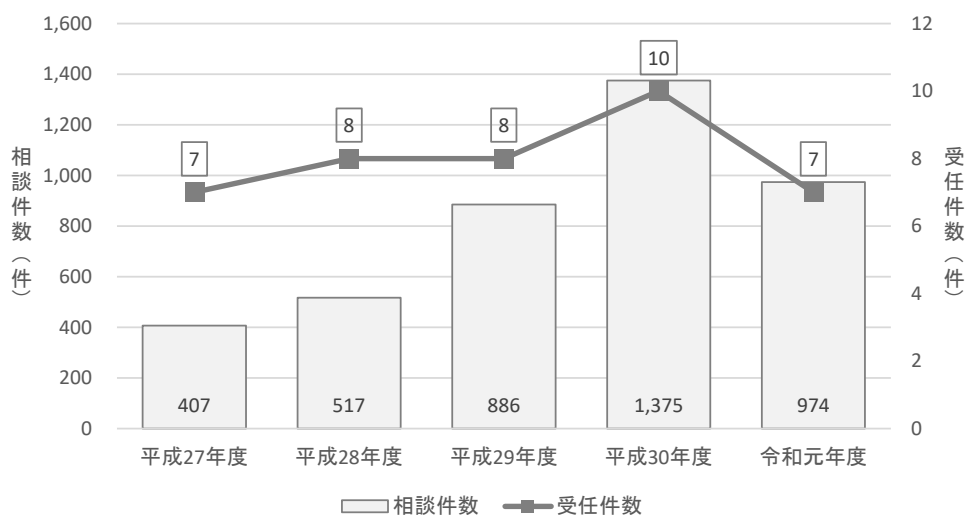
	家族や親族	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	友人・知人	利用している施設の職員・グループホームの世話人	障害福祉課・予防対策課	ヘルパー等福祉従事者	高齢者あんしん相談センター	相談する相手がない
肢体不自由	79.9%	38.8%	22.8%	11.8%	6.5%	14.5%	9.2%	3.3%
音声・言語・そしゃく機能障害	81.6%	36.8%	29.9%	21.8%	12.6%	12.6%	10.3%	3.4%
視覚障害	76.6%	34.5%	25.5%	9.0%	11.7%	17.9%	5.5%	2.8%
聴覚・平衡機能障害	81.0%	29.1%	25.9%	8.2%	10.8%	7.6%	12.7%	1.9%
内部障害	76.6%	50.3%	18.9%	6.0%	6.3%	8.1%	7.8%	4.5%
知的障害	83.0%	29.4%	8.1%	43.0%	18.3%	7.2%	0.9%	0.9%
発達障害	80.0%	44.7%	17.3%	26.7%	16.7%	3.3%	1.3%	4.0%
精神障害	67.8%	54.8%	24.5%	13.9%	12.5%	6.1%	2.1%	4.9%
高次脳機能障害	83.9%	45.2%	19.4%	16.1%	16.1%	19.4%	6.5%	3.2%
難病（特定疾病）	82.2%	52.3%	29.0%	4.5%	4.0%	5.1%	5.0%	3.1%
その他	75.0%	45.8%	12.5%	16.7%	4.2%	12.5%	0.0%	0.0%
全体	77.4%	42.4%	22.7%	10.9%	8.1%	7.1%	4.9%	3.4%



## ○成年後見制度の相談件数及び法人後見受任件数の推移

社会福祉協議会が行っている成年後見制度の相談件数は、令和元年度が974件となっています。4年前の平成27年度と比較すると、139.3%の増加（約2.4倍）となっています。相談件数は平成27年度以降増加傾向にありましたが、平成30年度の1,375件をピークに令和元年度にかけては減少に転じています。法人後見受任件数は令和元年度が7件で、平成27年度から概ね横ばいで推移しています。

【図表：成年後見制度の相談件数及び法人後見受任件数の推移】

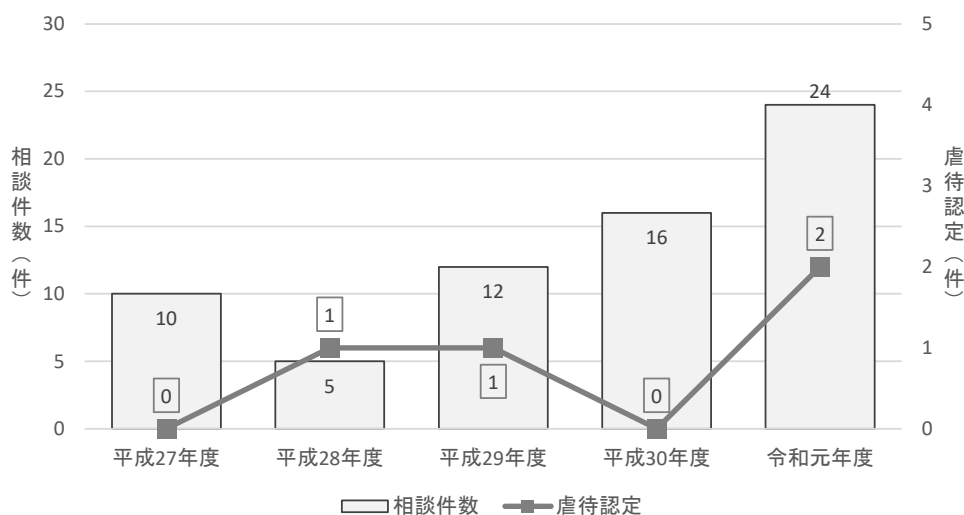


(各年度末現在)

## ○障害者虐待防止センター相談件数の推移

障害者虐待防止センター相談件数は、センターが設置された平成24年度の19件から平成28年度には5件まで減少しましたが、その後は増加が続き、令和元年度は24件となっています。虐待認定件数は、平成27年度は0件でしたが、令和元年度は2件と増加し、平成27年度以降0～2件程度で推移しています。

【図表：障害者虐待防止センター相談件数の推移】



(各年度末現在)

### ■相談支援と権利擁護における課題

- 各相談機関の連携など、総合的、専門的、長期的な相談・支援体制が構築されること
- 障害者や家族同士の情報交換・交流の場づくりが進められること
- 虐待を地域で防止するためのネットワークづくりが進められること
- 障害者が安心して暮らしていくための、権利擁護や成年後見制度等のさらなる普及啓発を行うこと
- 障害者差別解消に向けた取組みが推進されること

## (4) 障害者の就労について

### ○仕事での困りごと（在宅の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、在宅の方に仕事での困りごとをお聞きしたところ、全体としては「仕事での体調の変化に不安がある」が28.8%と3割近くで最も多く、次いで「調子が悪いときに休みがとりにくい」が18.5%、「賃金や待遇面で不満がある」が16.0%と続きます。一方、「特にない」は35.3%と3割半ばを占めています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「仕事での体調の変化に不安がある」と答えた方では、精神障害が38.9%と最も多く、次いで難病が36.3%、内部障害が36.2%と続きます。「調子が悪いときに休みがとりにくい」と答えた方では、その他が33.3%と最も多く、次いで精神障害が25.0%、難病が21.9%と続きます。「賃金や待遇面で不満がある」と答えた方では、発達障害が33.9%と最も多く、次いでその他が33.3%、精神障害が26.9%と続きます。「通勤が大変である」と答えた方では、難病が25.0%と最も多く、次いで視覚障害が24.2%、肢体不自由が23.7%と続きます。「職場の障害理解が不足している」と答えた方では、視覚障害が27.3%と最も多く、次いで難病が25.0%、聴覚・平衡機能障害が16.2%と続きます。「職場に相談できる人や援助者がいない」と答えた方では、難病が25.0%と最も多く、次いで視覚障害が18.2%、高次脳機能障害が17.6%と続きます。「能力に応じた評価、昇進の仕組みがない」と答えた方では、精神障害が18.5%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が18.2%、視覚障害が12.1%と続きます。「職場の人間関係がうまくいかない」と答えた方では、その他が33.3%と最も多く、次いで発達障害が28.8%、視覚障害が18.2%と続きます。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：仕事での困りごと（在宅の方）】

	仕事中の体調の変化に不安がある	調子が悪いときに休みが取りにくい	賃金や待遇面で不満がある	通勤が大変である	職場の障害理解が不足している	職場に相談できる人や援助者がいない	能力に応じた評価、昇進の仕組みがない	職場の人間関係がうまくいかない
肢体不自由	22.0%	18.6%	15.3%	23.7%	6.8%	5.1%	8.5%	1.7%
音声・言語・そしゃく機能障害	9.1%	18.2%	0.0%	18.2%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%
視覚障害	21.2%	18.2%	21.2%	24.2%	27.3%	18.2%	12.1%	18.2%
聴覚・平衡機能障害	18.9%	10.8%	13.5%	10.8%	16.2%	13.5%	10.8%	8.1%
内部障害	36.2%	20.2%	11.7%	16.0%	11.7%	8.5%	5.3%	1.1%
知的障害	6.0%	3.0%	10.4%	6.0%	9.0%	9.0%	3.0%	17.9%
発達障害	32.2%	15.3%	33.9%	15.3%	13.6%	16.9%	10.2%	28.8%
精神障害	38.9%	25.0%	26.9%	12.0%	13.0%	17.6%	18.5%	16.7%
高次脳機能障害	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
難病（特定疾病）	36.3%	21.9%	12.2%	14.8%	10.4%	8.1%	6.3%	4.8%
その他	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
全体	28.8%	18.5%	16.0%	12.8%	11.6%	10.3%	8.9%	8.7%

## ○就労のために希望する支援（在宅の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、在宅の方に就労のために希望する支援をお聞きしたところ、全体としては「自分に合った仕事を見つける支援」が31.3%と3割を超えて最も多く、次いで「企業等における障害理解の推進」が29.1%、「就労に向けての相談支援」が26.3%と続きます。一方、「特にない」は18.5%と2割近くとなっています。なお、障害別にみると、いずれの項目も発達障害の方が必要としている割合が最も高くなっています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「自分に合った仕事を見つける支援」と答えた方では、発達障害が55.3%と最も多く、次いで精神障害が43.3%、知的障害が41.7%と続きます。「企業等における障害理解の推進」と答えた方では、発達障害が53.3%と最も多く、次いで精神障害が38.4%、知的障害が32.3%と続きます。「就労に向けての相談支援」と答えた方では、発達障害が50.0%と最も多く、次いで精神障害が34.4%、知的障害が31.5%と続きます。「就労継続に向けての相談支援」と答えた方では、発達障害が50.0%と最も多く、次いで精神障害が31.8%、知的障害が29.8%と続きます。「求職活動の支援」と答えた方では、発達障害が30.0%と最も多く、次いで精神障害が26.8%、難病が21.6%と続きます。「企業等での短時間（1日2時間程度）雇用の推進」と答えた方では、発達障害が29.3%と最も多く、次いで精神障害が26.4%、難病が19.3%と続きます。「自立や社会参加を目的とした就労訓練の場」と答えた方では、発達障害が30.0%と最も多く、次いでその他が25.0%、高次脳機能障害が22.6%と続きます。「障害のある人が働く企業等の見学」と答えた方では、発達障害が32.0%と最も多く、次いで精神障害が25.2%、知的障害が16.6%と続きます。

このように、障害者が就労するために必要なこと（在宅の方）は、障害によって多様です。

【図表：就労のために希望する支援（在宅の方）】

	自分に合った仕事を見つけたる支援	企業等における障害理解の推進	就労に向けての相談支援	就労継続に向けての相談支援	求職活動の支援	企業等での短時間（1日2時間程度）雇用の推進	自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	障害のある人が働く企業等の見学
肢体不自由	19.2%	17.8%	20.1%	12.4%	11.8%	8.6%	8.3%	8.3%
音声・言語・そしゃく機能障害	23.0%	18.4%	20.7%	20.7%	10.3%	10.3%	12.6%	16.1%
視覚障害	19.3%	28.3%	21.4%	13.1%	17.9%	7.6%	15.2%	15.2%
聴覚・平衡機能障害	26.6%	22.8%	19.6%	16.5%	12.7%	8.9%	8.9%	10.8%
内部障害	21.9%	21.0%	17.7%	10.8%	12.0%	9.9%	7.5%	6.3%
知的障害	41.7%	32.3%	31.5%	29.8%	15.7%	18.3%	20.0%	16.6%
発達障害	55.3%	53.3%	50.0%	50.0%	30.0%	29.3%	30.0%	32.0%
精神障害	43.3%	38.4%	34.4%	31.8%	26.8%	26.4%	20.5%	25.2%
高次脳機能障害	38.7%	25.8%	22.6%	19.4%	6.5%	16.1%	22.6%	12.9%
難病（特定疾病）	28.4%	31.8%	28.7%	21.0%	21.6%	19.3%	12.9%	6.8%
その他	29.2%	12.5%	12.5%	12.5%	20.8%	4.2%	25.0%	8.3%
全体	31.3%	29.1%	26.3%	20.6%	18.9%	15.7%	14.0%	13.2%

■障害者の就労における課題

- ・ 本人や家族、職場に対する専門性の高い相談・支援が行われること
- ・ 多様な障害の特性や個性に合わせた就業形態・就労機会が拡大されること
- ・ 障害者雇用に対する企業（働く現場の人）の理解と受け入れ体制の整備が進むこと
- ・ 就労の促進及び継続・定着を支援するための方策を打ち出すこと
- ・ 福祉的就労における作業内容の充実と工賃をアップさせる取組みが推進されること

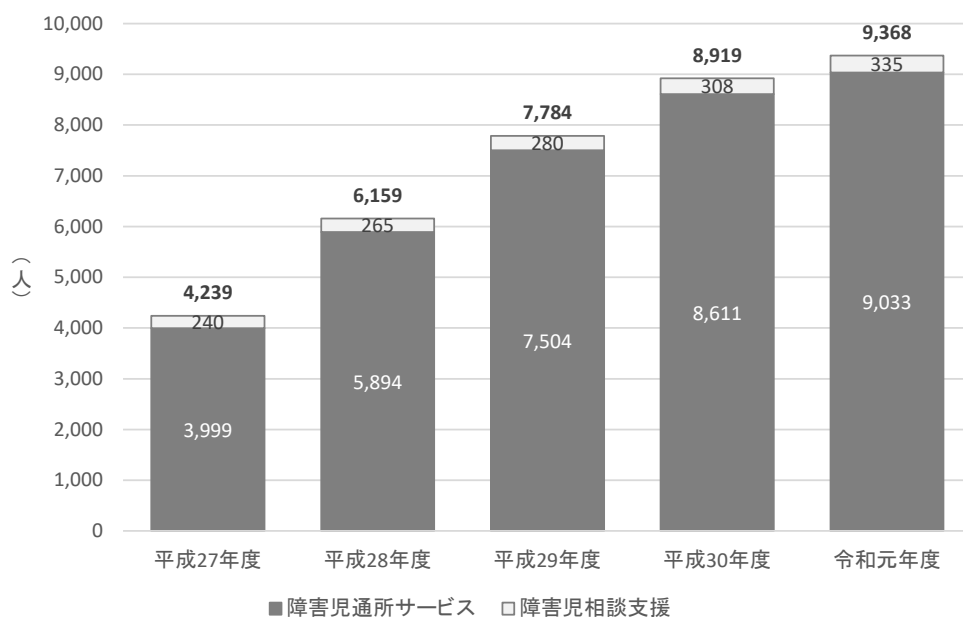
## (5) 子どもの育ち及び家庭への支援について

### ○児童福祉法に基づく障害児通所サービス等の延利用者数

児童福祉法に基づく障害児通所サービス等の利用者は、令和元年度末現在 9,368 人で、4年前の平成 27 年度と比較すると、約 2.2 倍に増加しています。サービス別では、障害児通所サービスが 9,033 人で全利用者の 96.4%、残りの 335 人（同 3.6%）が障害児相談支援となっています。

この4年間増加傾向が続いているものの、平成 30 年度以降はその傾向が緩やかになり、平成 30 年度と令和元年度とを比較すると、障害児通所サービスが 4.9%の増加、障害児相談支援が 8.8%の増加に留まっています。

【図表：児童福祉法に基づく障害児通所サービス等の延利用者数】



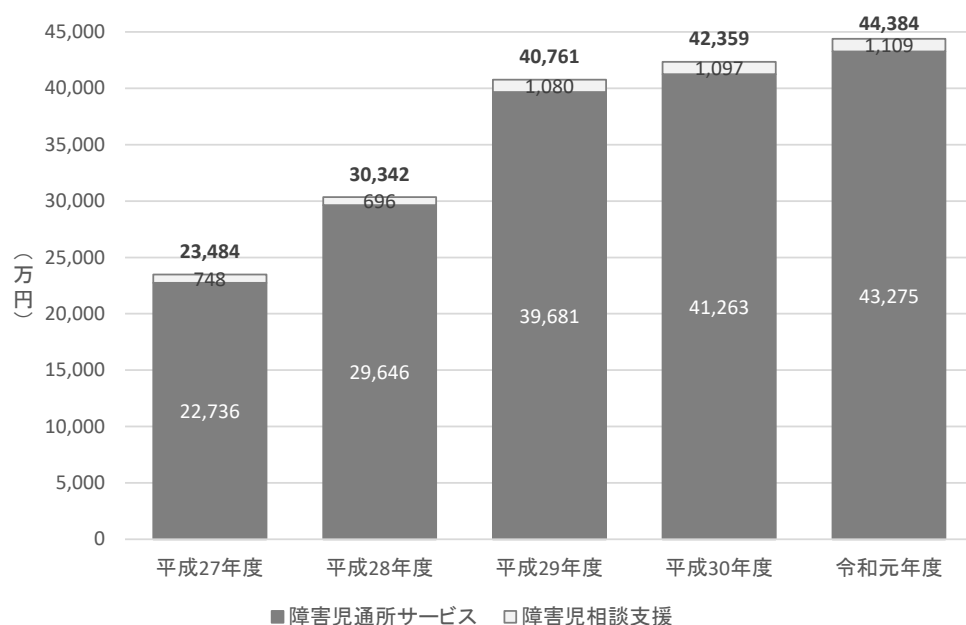
(各年度末現在)

## ○児童福祉法に基づく障害児通所サービス等の給付額

令和元年度における児童福祉法に基づく障害児通所サービス等の給付額は、4年前の平成27年度と比較すると約1.9倍に増加しており、給付額は4億4千万円を超えています。サービス別では、障害児通所サービスが4億3,275万円、障害児相談支援が1,109万円となっています。

この4年間増加傾向が続いているものの、平成29年度以降はその傾向が緩やかになり、平成29年度と令和元年度とを比較すると、障害児通所サービスが9.1%の増加、障害児相談支援が2.7%の増加に留まっています。

【図表：児童福祉法に基づく障害児通所サービス等の給付額】



(各年度末現在)



## ○日常生活で困っていること（18歳未満の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、18歳未満の方に日常生活で困っていることをお聞きしたところ、全体としては「将来に不安を感じている」が51.2%と5割を超えて最も多く、次いで「障害のため、身の回りのことが十分できない」が36.3%、「友だちとの関係がうまくいかない」が35.2%と続きます。一方、「特にない」は18.5%と2割近くとなっています。なお、障害別では精神障害の全ての方が「将来に不安を感じている」、「友だちとの関係がうまくいかない」と答え、高次脳機能障害の全ての方が「障害のため、身の回りのことが十分できない」と答えています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「将来に不安を感じている」と答えた方では、精神障害が100%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が78.9%、難病が71.4%と続きます。「障害のため、身の回りのことが十分できない」と答えた方では、高次脳機能障害が100%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が84.2%、精神障害が75.0%と続きます。「友だちとの関係がうまくいかない」と答えた方では、精神障害が100%と最も多く、次いで発達障害が49.3%、聴覚・平衡機能障害が33.3%と続きます。「緊急時の対応に不安がある」と答えた方では、精神障害、難病が50.0%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が47.4%、知的障害が44.7%と続きます。「災害時の対応に不安がある」と答えた方では、難病が50.0%と最も多く、次いで肢体不自由が48.5%、音声・言語・そしゃく機能障害が47.4%と続きます。「障害や病気に対する周りの理解がない」と答えた方では、高次脳機能障害が50.0%と最も多く、次いで聴覚・平衡機能障害、高次脳機能障害がともに33.3%、音声・言語・そしゃく機能障害が31.6%と続きます。「外出が大変である」と答えた方では、高次脳機能障害が66.7%と最も多く、次いで難病が64.3%、肢体不自由が54.5%と続きます。「生活にお金がかかることに不安がある」と答えた方では、難病が64.3%と最も多く、次いで肢体不自由が42.4%、音声・言語・そしゃく機能障害が42.1%と続きます。

このように、日常生活で困っていること（18歳未満の方）は、障害によって多様です。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：日常生活で困っていること（18歳未満の方）】

	将来に不安を感じている	障害のため、身の回りのことが十分できない	友だちとの関係がうまくいかない	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	障害や病気に対する周りの理解がない	外出が大変である	生活にお金がかかることに不安がある
肢体不自由	63.6%	66.7%	6.1%	42.4%	48.5%	27.3%	54.5%	42.4%
音声・言語・そしゃく機能障害	78.9%	84.2%	31.6%	47.4%	47.4%	31.6%	52.6%	42.1%
視覚障害	53.3%	53.3%	20.0%	40.0%	46.7%	13.3%	40.0%	33.3%
聴覚・平衡機能障害	50.0%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%
内部障害	57.9%	31.6%	5.3%	26.3%	26.3%	15.8%	36.8%	26.3%
知的障害	56.9%	54.5%	30.9%	44.7%	43.1%	26.8%	35.0%	28.5%
発達障害	51.5%	32.4%	49.3%	31.6%	27.2%	28.7%	16.2%	18.4%
精神障害	100%	75.0%	100%	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%
高次脳機能障害	66.7%	100%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%
難病（特定疾病）	71.4%	57.1%	7.1%	50.0%	50.0%	21.4%	64.3%	64.3%
その他	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%
全体	51.2%	36.3%	35.2%	32.8%	30.9%	25.0%	22.3%	20.7%

## ○地域で安心して暮らすために必要な施策（18歳未満の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、18歳未満の方に地域で安心して暮らすために必要な施策をお聞きしたところ、全体としては「周囲の人の障害に対する理解の促進」が52.3%、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が52.3%と5割を超えて多く、次いで「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が41.4%、「仕事を継続するための支援の充実」が30.1%と続きます。（※回答は、あてはまるものを5つまで選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「周囲の人の障害に対する理解の促進」と答えた方では、精神障害が100%と最も多く、次いで聴覚・平衡機能障害、高次脳機能障害がともに66.7%、音声・言語・そしゃく機能障害が57.9%と続きます。「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」と答えた方では、その他が80.0%と最も多く、次いで精神障害が75.0%、発達障害が62.5%と続きます。「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」と答えた方では、精神障害が50.0%と最も多く、次いで知的障害が47.2%、発達障害が43.4%と続きます。「仕事を継続するための支援の充実」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害、精神障害がともに50.0%と最も多く、次いで知的障害が36.6%、発達障害が33.8%と続きます。「経済的支援の充実」と答えた方では、高次脳機能障害が66.7%と最も多く、次いで視覚障害が40.0%、肢体不自由が39.4%と続きます。「身近な地域で相談できる場の充実」と答えた方では、その他が60.0%と最も多く、次いで精神障害が50.0%、聴覚・平衡機能障害が33.3%と続きます。「医療やリハビリテーションの充実」と答えた方では、精神障害が50.0%と最も多く、次いでその他が40.0%、肢体不自由が39.4%と続きます。「趣味やスポーツ活動の充実」と答えた方は比較的少ない中で、高次脳機能障害が33.3%、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が26.3%、知的障害が22.0%と続きます。

このように、地域で安心して暮らすために必要な施策（18歳未満の方）は、「周囲の人の障害に対する理解の促進」や「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」がどの障害においても求められているものの、障害によって必要な施策も多様です。

【図表：地域で安心して暮らすために必要な施策（18歳未満の方）】

	周囲の人の障害に対する理解の促進	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するため の支援の充実	経済的支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	医療やリハビリテーションの充実	趣味やスポーツ活動の充実
肢体不自由	27.3%	36.4%	15.2%	6.1%	39.4%	12.1%	39.4%	3.0%
音声・言語・そしゃく機能障害	57.9%	26.3%	26.3%	26.3%	31.6%	10.5%	31.6%	26.3%
視覚障害	40.0%	33.3%	26.7%	26.7%	40.0%	13.3%	26.7%	13.3%
聴覚・平衡機能障害	66.7%	50.0%	16.7%	50.0%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%
内部障害	47.4%	26.3%	21.1%	21.1%	31.6%	10.5%	31.6%	21.1%
知的障害	55.3%	39.8%	47.2%	36.6%	30.9%	10.6%	17.9%	22.0%
発達障害	53.7%	62.5%	43.4%	33.8%	22.8%	30.9%	19.9%	17.6%
精神障害	100%	75.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
高次脳機能障害	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	33.3%	33.3%
難病（特定疾病）	35.7%	21.4%	14.3%	14.3%	35.7%	14.3%	28.6%	0.0%
その他	40.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	20.0%
全体	52.3%	52.0%	41.4%	30.1%	25.0%	23.0%	21.1%	18.4%

■子どもの育ち及び家庭への支援における課題

- ・子どもとその家族を含めた相談支援の充実を図ること
- ・子どもの成長段階に応じた適切な支援・情報が提供されること
- ・関係機関との連携を強化した、切れ目のない継続した支援が受けられること
- ・障害のあるなしにかかわらず、共に地域で育ちあう環境づくりが進むこと
- ・障害のある子どもの居場所対策が推進されること
- ・医療的ケア児への支援体制を強化すること

## (6) バリアフリー（ソフト・ハード）の推進について

### ○外出時の困りごと（在宅の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、在宅の方に外出時の困りごとをお聞きしたところ、全体としては「疲れたときの休憩所」が26.9%と2割半ばを超えて最も多く、次いで「スマホのながら歩きに危険を感じる」が25.6%、「建物の段差や階段」が24.4%、「歩道の段差や傾斜」が24.2%、「自動車・自転車に危険を感じる」が23.4%と2割半ば前後で続きます。一方、「特にない」は24.7%と2割半ばを占めています。なお、障害別では、視覚障害の過半（50.0%以上）の方が「建物の段差や階段」、「歩道の段差や傾斜」、「自動車・自転車に危険を感じる」と答えています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「疲れたときの休憩所」と答えた方では、高次脳機能障害が38.7%と最も多く、次いで肢体不自由が35.2%、精神障害が32.2%と続きます。「スマホのながら歩きに危険を感じる」と答えた方では、視覚障害が42.8%と最も多く、次いでその他が33.3%、肢体不自由が33.1%と続きます。「建物の段差や階段」と答えた方では、視覚障害が51.7%と最も多く、次いで肢体不自由が43.5%、高次脳機能障害が41.9%と続きます。「歩道の段差や傾斜」と答えた方では、視覚障害が53.8%と最も多く、次いで肢体不自由が49.1%、高次脳機能障害が41.9%と続きます。「自動車・自転車に危険を感じる」と答えた方では、視覚障害が51.0%と最も多く、次いで聴覚・平衡機能障害が33.5%、高次脳機能障害が32.3%と続きます。「駅構内の移動や乗り換え」と答えた方では、肢体不自由が29.3%と最も多く、次いで視覚障害が29.0%、その他が25.0%と続きます。「トイレの利用」はどの障害の方も比較的少ない中で、音声・言語・そしゃく機能障害が25.3%と最も多く、次いでその他が25.0%、高次脳機能障害が22.6%と続きます。「外出するのに支援が必要である」と答えた方では、知的障害が38.7%と最も多く、次いで視覚障害が34.5%、音声・言語・そしゃく機能障害が29.9%と続きます。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：外出時の困りごと（在宅の方）】

	場所 疲れた ときの 休憩	スマホの ながら歩 きに 危険を 感じる	建物 の段差 や階段	歩道 の段差 や傾斜	自動車・ 自転車に 危険を 感じる	駅構内 の移動 や乗り 換え	トイレ の利用	外出 するの に支援 が必要 である
肢体不自由	35.2%	33.1%	43.5%	49.1%	27.5%	29.3%	22.2%	19.8%
音声・言語・そ しゃく機能障害	26.4%	24.1%	32.2%	28.7%	19.5%	23.0%	25.3%	29.9%
視覚障害	26.9%	42.8%	51.7%	53.8%	51.0%	29.0%	22.1%	34.5%
聴覚・平衡機能 障害	25.3%	27.2%	22.8%	28.5%	33.5%	17.7%	10.8%	12.7%
内部障害	29.6%	23.4%	29.9%	30.5%	22.5%	12.6%	15.3%	11.1%
知的障害	18.7%	17.4%	16.6%	14.9%	21.3%	16.2%	15.3%	38.7%
発達障害	22.0%	18.0%	8.7%	8.0%	25.3%	15.3%	13.3%	24.0%
精神障害	32.2%	21.4%	13.9%	11.5%	17.6%	10.8%	12.9%	10.1%
高次脳機能障害	38.7%	19.4%	41.9%	41.9%	32.3%	19.4%	22.6%	22.6%
難病（特定疾病）	28.7%	25.2%	25.2%	24.9%	21.1%	13.7%	15.8%	9.2%
その他	25.0%	33.3%	41.7%	41.7%	20.8%	25.0%	25.0%	20.8%
全体	26.9%	25.6%	24.4%	24.2%	23.4%	15.4%	14.7%	13.6%

## ○外出時の困りごと（18歳未満の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、18歳未満の方に外出時の困りごとをお聞きしたところ、全体としては「外出するのに支援が必要である」が37.9%と3割を超えて最も多く、次いで「駅構内の移動や乗り換え」が27.0%、「トイレの利用」が22.3%、「バスやタクシーの利用」が20.7%と2割台で続きます。一方、「特にない」も22.3%と2割を超えています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「外出するのに支援が必要である」と答えた方では、高次脳機能障害が66.7%と最も多く、次いで難病が64.3%、知的障害が59.3%と続きます。「駅構内の移動や乗り換え」と答えた方では、視覚障害が60.0%と最も多く、次いで肢体不自由が51.5%、精神障害、難病がともに50.0%と続きます。「トイレの利用」と答えた方では、視覚障害が60.0%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が52.6%、難病が50.0%と続きます。「バスやタクシーの利用」と答えた方では、音声・言語・そしゃく機能障害が47.4%と最も多く、次いで肢体不自由が45.5%、視覚障害が40.0%と続きます。「周囲の人の理解や配慮がない」と答えた方では、高次脳機能障害が66.7%と最も多く、次いで難病が35.7%、聴覚・平衡機能障害が33.3%と続きます。「疲れたときの休憩場所」と答えた方では、高次脳機能障害が66.7%と最も多く、次いで精神障害が50.0%、音声・言語・そしゃく機能障害が42.1%と続きます。「歩道の段差や傾斜」と答えた方では、肢体不自由が45.5%と最も多く、次いで視覚障害が40.0%、音声・言語・そしゃく機能障害が36.8%と続きます。「建物の段差や階段」と答えた方では、難病が50.0%と最も多く、次いで肢体不自由が45.5%、高次脳機能障害が33.3%と続きます。

### 第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：外出時の困りごと（18歳未満の方）】

	外出する際に支 援が必要である	駅構内の移動や 乗り換え	トイレの利用	バスやタクシー の利用	周囲の人の理解 や配慮がない	憩場所 疲れたときの休	斜歩道の段差や傾	段建物の段差や階
肢体不自由	57.6%	51.5%	48.5%	45.5%	18.2%	24.2%	45.5%	45.5%
音声・言語・そ しゃく機能障害	57.9%	36.8%	52.6%	47.4%	31.6%	42.1%	36.8%	21.1%
視覚障害	46.7%	60.0%	60.0%	40.0%	13.3%	26.7%	40.0%	26.7%
聴覚・平衡機能 障害	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%
内部障害	31.6%	31.6%	42.1%	26.3%	0.0%	31.6%	26.3%	21.1%
知的障害	59.3%	37.4%	31.7%	27.6%	22.0%	18.7%	15.4%	12.2%
発達障害	29.4%	16.9%	16.9%	17.6%	19.9%	16.9%	3.7%	4.4%
精神障害	50.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%
高次脳機能障害	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	33.3%	33.3%
難病（特定疾病）	64.3%	50.0%	50.0%	35.7%	35.7%	21.4%	35.7%	50.0%
その他	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	37.9%	27.0%	22.3%	20.7%	19.5%	18.0%	12.5%	11.7%



## ○合理的配慮に必要なこと（在宅の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、在宅の方に社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮に必要なことをお聞きしたところ、全体としては「合理的配慮事例の周知・啓発」が30.2%と約3割で最も多く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が25.6%、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が23.6%で続きます。一方、「特にない」は18.2%となっています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「合理的配慮事例の周知・啓発」と答えた方では、発達障害が47.3%と最も多く、次いで知的障害が38.7%、精神障害が34.6%と続きます。「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」と答えた方では、発達障害が48.0%と最も多く、次いで知的障害が31.9%、精神障害が28.9%と続きます。「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」と答えた方では、視覚障害が33.8%と最も多く、次いで肢体不自由が32.0%、聴覚・平衡機能障害が29.7%と続きます。「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害が33.5%と最も多く、次いで視覚障害が31.7%、発達障害が30.0%と続きます。「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」と答えた方では、発達障害が30.0%と最も多く、次いで高次脳機能障害が22.6%、精神障害が21.4%と続きます。「障害当事者等を講師とした研修・講演」と答えた方では、発達障害が25.3%と最も多く、次いで精神障害が21.2%、その他が20.8%と続きます。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：合理的配慮に必要なこと（在宅の方）】

	合理的配慮事例の周知・啓発	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	障害当事者等を講師とした研修・講演
肢体不自由	25.1%	20.1%	32.0%	16.6%	12.7%	9.5%
音声・言語・そしゃく機能障害	27.6%	17.2%	26.4%	19.5%	16.1%	9.2%
視覚障害	30.3%	24.8%	33.8%	31.7%	13.1%	17.9%
聴覚・平衡機能障害	20.3%	19.0%	29.7%	33.5%	16.5%	14.6%
内部障害	26.6%	21.0%	23.4%	14.7%	11.7%	8.7%
知的障害	38.7%	31.9%	19.6%	23.4%	22.1%	17.9%
発達障害	47.3%	48.0%	26.0%	30.0%	30.0%	25.3%
精神障害	34.6%	28.9%	16.0%	17.9%	21.4%	21.2%
高次脳機能障害	29.0%	22.6%	25.8%	6.5%	22.6%	12.9%
難病（特定疾病）	32.5%	28.2%	27.6%	22.3%	14.9%	13.0%
その他	20.8%	16.7%	20.8%	20.8%	20.8%	20.8%
全体	30.2%	25.6%	23.6%	20.7%	16.5%	14.6%

## ○合理的配慮に必要なこと（18歳未満の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、18歳未満の方に社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮に必要なことをお聞きしたところ、全体としては「合理的配慮事例の周知・啓発」が57.0%と5割半ばを超えて最も多く、次いで「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が31.3%で続きます。一方、「特にない」は7.0%となっています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「合理的配慮事例の周知・啓発」と答えた方では、精神障害が100%と最も多く、次いで聴覚・平衡機能障害が83.3%、内部障害が63.2%と続きます。「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」と答えた方では、高次脳機能障害が66.7%と最も多く、次いで内部障害が63.2%、知的障害が56.1%と続きます。「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害が83.3%と最も多く、次いで視覚障害、知的障害、高次脳機能障害がともに33.3%と続きます。「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害が50.0%と最も多く、次いで視覚障害が31.7%、発達障害が30.9%と続きます。「バリアフリー化や情報保護のための機器の導入」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害、高次脳機能障害がともに66.7%と最も多く、次いで肢体不自由が57.6%、難病が57.1%と続きます。「障害当事者等を講師とした研修・講演」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害が66.7%と最も多く、次いでその他が40.0%、高次脳機能障害が33.3%と続きます。

【図表：合理的配慮に必要なこと（18歳未満の方）】

	合理的配慮事例の周知・啓発	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	障害の特性に応じたコミュニケーション対応	筆談、読み上げ、手話など	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	障りのための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
肢体不自由	42.4%	36.4%	21.2%	9.1%	57.6%	18.2%	
音声・言語・そしゃく機能障害	52.6%	47.4%	31.6%	26.3%	42.1%	31.6%	
視覚障害	33.3%	46.7%	33.3%	6.7%	33.3%	13.3%	
聴覚・平衡機能障害	83.3%	50.0%	83.3%	50.0%	66.7%	66.7%	
内部障害	63.2%	63.2%	26.3%	10.5%	21.1%	15.8%	
知的障害	62.6%	56.1%	33.3%	31.7%	24.4%	27.6%	
発達障害	60.3%	41.2%	30.9%	30.9%	22.1%	22.8%	
精神障害	100%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
高次脳機能障害	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	66.7%	33.3%	
難病（特定疾病）	50.0%	35.7%	28.6%	7.1%	57.1%	21.4%	
その他	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	
全体	57.0%	45.7%	31.3%	28.1%	27.3%	24.2%	

■バリアフリー（ソフト・ハード）の推進における課題

- ・道路・歩道や公共的な施設・空間のハード面のバリアフリー化を進め、使いやすさを向上させること
- ・障害に応じた、適切な媒体による分かりやすい情報提供が行われること
- ・学校や職場、地域等での障害者に対する理解が進むこと
- ・障害者の地域社会等への参加の支援を推進すること

## (7) 防災・災害対策について

### ○災害発生時の困りごと（在宅の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、在宅の方に災害発生時の困りごとをお聞きしたところ、全体としては「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が47.3%と4割半ばを超えて最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が33.6%、「一人では避難できない」が23.5%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が23.4%と続きます。一方、「特にない」は12.3%となっています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」と答えた方では、難病が62.5%と最も多く、次いで精神障害が60.0%、内部障害が57.5%と続きます。「避難所で必要な支援が受けられるか不安」と答えた方では、その他が54.2%と最も多く、次いで発達障害が48.7%、知的障害が46.0%と続きます。「一人では避難できない」と答えた方では、知的障害が51.5%と最も多く、次いで視覚障害が46.2%、音声・言語・そしゃく機能障害が44.8%と続きます。「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」と答えた方では、発達障害が51.3%と最も多く、次いで知的障害が42.1%、精神障害が36.2%と続きます。「避難所の設備が障害に対応しているか不安」と答えた方では、肢体不自由が34.3%と最も多く、次いで視覚障害が31.7%、知的障害が30.2%と続きます。「助けを求める方法が分からない」と答えた方では、知的障害が32.3%と最も多く、次いで発達障害が32.0%、視覚障害が26.2%と続きます。「災害の情報を知る方法が分からない」と答えた方では、知的障害が29.4%と最も多く、次いで聴覚・平衡機能障害が25.3%、視覚障害が24.1%と続きます。「避難所の場所が分からない」と答えた方は比較的少ない中で、知的障害、高次脳機能障害がともに22.6%と最も多く、次いで発達障害が20.0%と続きます。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：災害発生時の困りごと（在宅の方）】

	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安	一人では避難できない	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	避難所の設備が障害に対応しているか不安	助けを求める方法がわからない	災害の情報を知らず方法がわからない	避難所の場所がわからない
肢体不自由	38.2%	35.5%	40.5%	21.6%	34.3%	14.8%	10.4%	12.7%
音声・言語・そしゃく機能障害	39.1%	34.5%	44.8%	26.4%	26.4%	20.7%	17.2%	14.9%
視覚障害	27.6%	37.2%	46.2%	21.4%	31.7%	26.2%	24.1%	17.9%
聴覚・平衡機能障害	27.8%	30.4%	28.5%	13.9%	20.9%	15.2%	25.3%	14.6%
内部障害	57.5%	29.9%	21.6%	15.3%	18.0%	12.9%	9.0%	9.6%
知的障害	28.9%	46.0%	51.5%	42.1%	30.2%	32.3%	29.4%	22.6%
発達障害	37.3%	48.7%	30.7%	51.3%	28.7%	32.0%	24.0%	20.0%
精神障害	60.0%	36.5%	19.5%	36.2%	19.5%	20.0%	14.8%	17.9%
高次脳機能障害	38.7%	29.0%	38.7%	16.1%	29.0%	19.4%	16.1%	22.6%
難病（特定疾病）	62.5%	33.8%	14.4%	17.0%	17.5%	7.9%	6.1%	6.8%
その他	41.7%	54.2%	29.2%	20.8%	20.8%	20.8%	8.3%	12.5%
全体	47.3%	33.6%	23.5%	23.4%	21.3%	15.5%	13.2%	12.6%

## ○災害発生時の困りごと（18歳未満の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、18歳未満の方に災害発生時の困りごとをお聞きしたところ、全体としては「一人では避難できない」が52.7%と5割を超えて最も多く、次いで「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が46.1%、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が45.7%と4割台で続きます。一方、「特にない」は11.3%となっています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「一人では避難できない」と答えた方では、高次脳機能障害が100%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が78.9%、精神障害が75.0%と続きます。「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」と答えた方では、発達障害が58.8%と最も多く、次いで知的障害が52.8%、精神障害が50.0%と続きます。「避難所で必要な支援が受けられるか不安」と答えた方では、聴覚・平衡機能障害が83.3%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が68.4%、視覚障害が66.7%と続きます。「避難所の設備が障害に対応しているか不安」と答えた方では、難病が71.4%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が68.4%、肢体不自由が66.7%と続きます。「助けを求める方法がわからない」と答えた方では、高次脳機能障害が66.7%と最も多く、次いで精神障害が50.0%、音声・言語・そしゃく機能障害が36.8%と続きます。「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」と答えた方では、内部障害が68.4%と最も多く、次いで高次脳機能障害が66.7%、難病が64.3%と続きます。「近くに助けてくれる人がいない」と答えた方では、精神障害が75.0%と最も多く、次いで視覚障害が33.3%、音声・言語・そしゃく機能障害が31.6%と続きます。「災害の情報を知る方法がわからない」と答えた方は比較的少ない中で、視覚障害が20.0%と最も多く、次いで知的障害が18.7%と続きます。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：災害発生時の困りごと（18歳未満の方）】

	一人では避難できない	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	避難所で必要な支援が受けられるか不安	避難所の設備が障害に対応しているか不安	助けを求める方法がわからない	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	近くに助けてくれる人がいない	災害の情報をする方法がわからない
肢体不自由	69.7%	24.2%	63.6%	66.7%	21.2%	51.5%	21.2%	3.0%
音声・言語・そしゃく機能障害	78.9%	47.4%	68.4%	68.4%	36.8%	47.4%	31.6%	10.5%
視覚障害	53.3%	40.0%	66.7%	46.7%	26.7%	20.0%	33.3%	20.0%
聴覚・平衡機能障害	50.0%	0.0%	83.3%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%
内部障害	57.9%	15.8%	57.9%	42.1%	15.8%	68.4%	5.3%	5.3%
知的障害	67.5%	52.8%	52.0%	39.8%	33.3%	28.5%	21.1%	18.7%
発達障害	47.8%	58.8%	41.9%	30.1%	23.5%	19.1%	19.1%	14.7%
精神障害	75.0%	50.0%	25.0%	50.0%	50.0%	50.0%	75.0%	0.0%
高次脳機能障害	100%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%
難病（特定疾病）	64.3%	35.7%	64.3%	71.4%	14.3%	64.3%	21.4%	0.0%
その他	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%
全体	52.7%	46.1%	45.7%	31.3%	25.8%	25.8%	16.8%	14.1%



## ○災害に対する備え（在宅の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、在宅の方に災害に対する備えをお聞きしたところ、全体としては「非常持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分程度）をしている」が37.3%と3割半ばを超えて最も多く、次いで「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が27.6%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が22.2%と2割を超えて続きます。一方、「特にない」も22.9%と2割を超えています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「非常持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分程度）をしている」と答えた方では、視覚障害が51.0%と最も多く、次いで難病が46.5%、聴覚・平衡機能障害が39.9%と続きます。「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」と答えた方では、難病が40.6%と最も多く、次いで内部障害が36.8%、高次脳機能障害が29.0%と続きます。「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」と答えた方では、発達障害が27.3%と最も多く、次いで視覚障害が26.9%、知的障害が26.4%と続きます。「家具に転倒防止器具を取り付けている」と答えた方では、視覚障害が24.8%と最も多く、次いで肢体不自由が24.6%、聴覚・平衡機能障害が24.1%と続きます。「文京区の『避難行動要支援者名簿』※4に登録している」と答えた方では、視覚障害が28.3%と最も多く、次いで知的障害が28.1%、肢体不自由が20.1%と続きます。

第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：災害に対する備え（在宅の方）】

	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	家具に転倒防止器具を取り付けている	文京区の「避難行動要支援者名簿」※4に登録している
肢体不自由	35.5%	27.2%	18.6%	24.6%	20.1%
音声・言語・そしゃく機能障害	27.6%	18.4%	9.2%	18.4%	19.5%
視覚障害	51.0%	25.5%	26.9%	24.8%	28.3%
聴覚・平衡機能障害	39.9%	16.5%	22.8%	24.1%	12.7%
内部障害	38.9%	36.8%	21.3%	20.4%	8.7%
知的障害	36.6%	16.2%	26.4%	21.3%	28.1%
発達障害	38.7%	20.7%	27.3%	17.3%	16.7%
精神障害	28.2%	23.1%	17.4%	15.8%	4.7%
高次脳機能障害	25.8%	29.0%	25.8%	16.1%	16.1%
難病（特定疾病）	46.5%	40.6%	23.6%	21.3%	6.3%
その他	41.7%	25.0%	12.5%	12.5%	16.7%
全体	37.3%	27.6%	22.2%	19.9%	10.5%

## ○災害に対する備え（18歳未満の方）（実態・意向調査より）

意向調査で、18歳未満の方に災害に対する備えをお聞きしたところ、全体としては「非常持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分程度）をしている」が55.5%と5割半ばを超えて最も多く、次いで「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が30.9%、「家具に転倒防止器具を取り付けている」が24.2%と続きます。一方、「特にない」は17.2%となっています。（※回答は、あてはまるものをすべて選択いただいたため、合計値が100%とはなっていません。）

項目別にみると、「非常持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分程度）をしている」と答えた方では、高次脳機能障害が100%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が73.7%、難病が71.4%と続きます。「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」と答えた方では、視覚障害が46.7%と最も多く、次いで知的障害、高次脳機能障害がともに33.3%と続きます。「家具に転倒防止器具を取り付けている」と答えた方では、高次脳機能障害が66.7%と最も多く、次いで音声・言語・そしゃく機能障害が36.8%、難病が35.7%と続きます。「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」と答えた方では、難病が64.3%と最も多く、次いで内部障害が57.9%、肢体不自由が36.4%と続きます。「文京区の『避難行動要支援者名簿』※4に登録している」と答えた方では、精神障害が50.0%と最も多く、次いで肢体不自由が45.5%、難病が42.9%と続きます。

### 第3章 障害者・障害児を取り巻く現状

【図表：災害に対する備え（18歳未満の方）】

	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分程度）をしている	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	家具に転倒防止器具を取り付けている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	文京区の「避難行動要支援者名簿」※4に登録している
肢体不自由	66.7%	27.3%	30.3%	36.4%	45.5%
音声・言語・そしゃく機能障害	73.7%	21.1%	36.8%	21.1%	42.1%
視覚障害	46.7%	46.7%	20.0%	20.0%	33.3%
聴覚・平衡機能障害	66.7%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%
内部障害	68.4%	26.3%	21.1%	57.9%	10.5%
知的障害	58.5%	33.3%	32.5%	22.0%	29.3%
発達障害	53.7%	30.1%	25.7%	14.7%	12.5%
精神障害	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%
高次脳機能障害	100.0%	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%
難病（特定疾病）	71.4%	21.4%	35.7%	64.3%	42.9%
その他	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	55.9%	30.9%	24.2%	19.1%	18.0%

#### ■防災・災害における課題

- ・発災時の安否確認や避難誘導、情報提供等、障害者に対する地域での支援体制が強化されること
- ・障害特性に配慮した、避難所への避難者及び自宅避難者に対する支援体制の整備が進むこと
- ・要援護者情報の充実を図ること